

# 上士幌町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

## 事業実施の目的・必要性

上士幌町においては、令和4年9月までは、十勝バス(株)、北海道拓殖バス(株)で各2系統計4系統が運行され、このほか、民間事業者によるタクシーの運行、町独自の取組として、町内の高齢者等を対象とした「高齢者等福祉バス」を運行してきた。

これら交通機関により、高齢者や学生をはじめとする町民の町内外への移動の足を確保してきたが、特に町内移動については、高齢者等福祉バスの対象外となる生産年齢人口等の町民は、十勝バス(株)及び北海道拓殖バス(株)の幹線交通でしか移動できない状況下であり、上士幌町に住み続けられる環境整備に向け、生産年齢人口等の町民の移動の足が急務となっていた。

これら諸課題の解決方針として、上士幌町では、令和3年3月に上士幌町地域公共交通計画を策定しており、令和3年度から解決方策の具体化を行ってきた。

本計画の方向性の1つである「利便性の高い町内交通の実現」に向け、「事業①利用者意向を踏まえた市街地循環バスの運行」として、運転手及び車両等のリソースの効率化に向け、これまで高齢者等の対象を限定していた「高齢者等福祉バス」の「市街地便」について、一般町民等も利用可能なように、対象者の枠を拡大及び有償化し、「市街地循環バス」として運行することで、より便利な移動環境を構築することとした。

## 生活交通確保維持改善計画の目標

- 目標① 市街地循環線の利用者数を3,300人以上とする。
- 目標② 市街地循環線の収支率を0.02%以上とする。
- 目標③ 市街地循環線への公的資金投入額を897万円/年以内とする。

## 令和7年度事業概要

運行系統名：(1)市街地循環バス①  
(2)市街地循環バス②  
(3)市街地循環バス③

運行区間：(1)交通ターミナル～交通ターミナル～はげあん診療所東側  
(2)はげあん診療所東側～交通ターミナル～はげあん診療所東側  
(3)東地区集会所前～交通ターミナル～生涯学習センター前

運行回数：(1)3回/日、458回/年  
(2)1回/日、153回/年  
(3)1回/日、153回/年

※道東地方における記録的大雪のため、R7.2.4(火)に運休有り。

運賃：【共通】100円/回

## 地域公共交通の現況

- ・十勝バス(株)  
上士幌線、ぬかびら線
- ・北海道拓殖バス(株)  
上士幌線、音上線
- ・上士幌タクシー(有)
- ・コミュニティバス  
高齢者等福祉バス、市街地循環バス(令和4年10月から運行)
- ・スクールバス(6路線)

## 協議会開催状況

令和7年6月24日(火) 第1回協議会開催  
生活交通確保維持改善計画の変更及び活用に係る協議・合意

令和7年12月24日(水) 第2回協議会開催(書面開催)  
地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

# 令和7年度事業の実施状況

## 1) プロセス、創意工夫

### ■本格運行までのプロセス

- ・令和4年9月まで、高齢の方や障がいのある方を対象とした「高齢者等福祉バス」として運行してきた。
- ・令和4年10月から市街地内の子育て世代や町来訪者等の一般の方の足の確保に向け、利用者枠を「高齢の方や障がいのある方」から、「一般の方」に拡大をし、市街地循環バス（有償）として運行を開始した。

### ■令和7年度創意工夫

#### ●利用者等ニーズ把握調査の実施

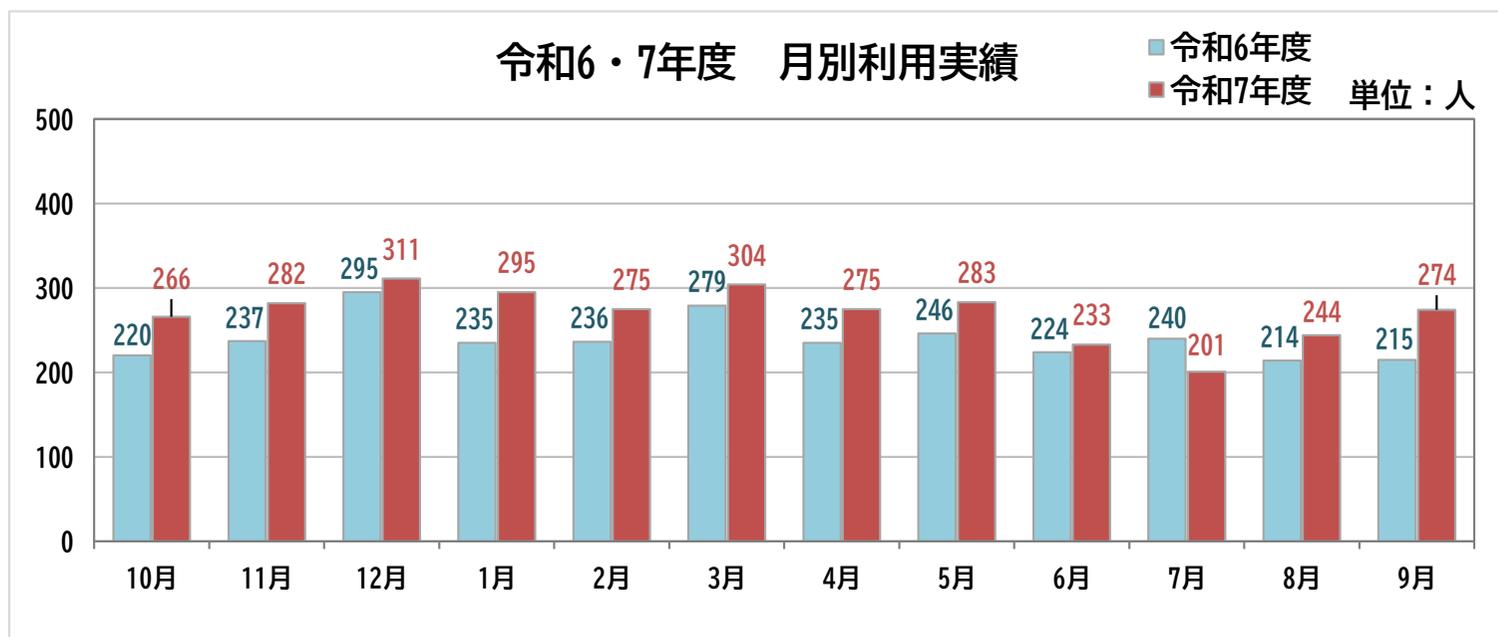
- ・市街地循環線等の町内公共交通の継続的な見直しに向け、利用者等を対象としたニーズ把握アンケート調査を実施しており、この調査結果を踏まえ、市街地循環線等の運行ルート等のサービス水準を見直しを検討予定。

## 2) 運行系統



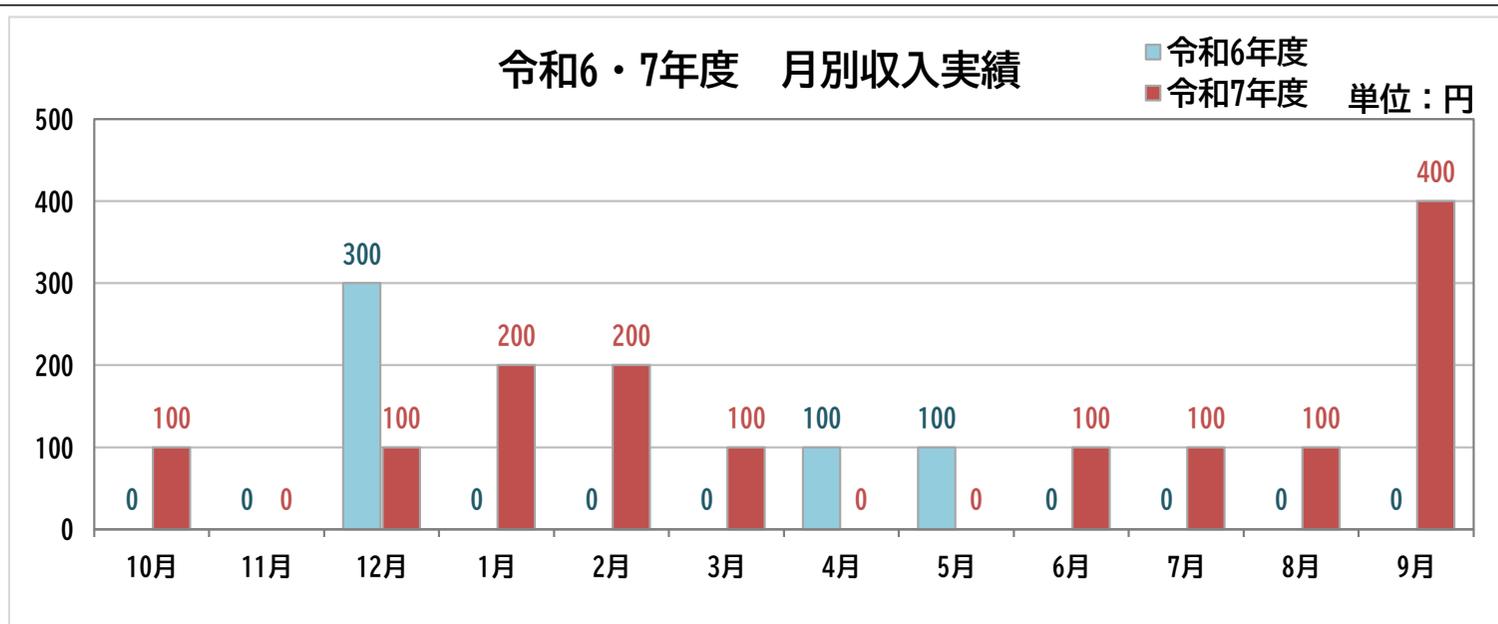
### 3) 利用実績 (1日当たり利用者数21.2人/日)

	令和6年度	令和7年度
利用者数	2,876人	3,243人
運行日数	154日	153日
1日当たりの利用者数	18.7人/日	21.2人/日



### 4) 収入実績 (現金0.1万円)

	令和6年度	令和7年度
有料となる利用者数	5人	14人
収入額	500円	1,400円



参考) 65歳以上の方、障がいのある方、介護される方、中学生以下は無料 (役場負担)

## 5) 事業実施の適切性

市街地循環バス①・②・③：計画通りに適切に実施されている。

## 6) 目標・効果達成状況

目標① 市街地循環線の利用者数を3,300人以上とする。

実績：3,243人（達成度：98.3%）

評価：利用状況として、令和6補助年度との比較で367人/年の増加となり、目標利用者数をほぼ達成。R7年2月4日の大雪に伴う運休が無ければ目標達成していたものと推察される。  
他方、利用者のほとんどがこれまで高齢者等福祉バスを利用してきた高齢者等（無料対象の利用者）であるため、一般利用（有償利用者）を増やす取組が必要である。

目標② 市街地循環線の収支率を0.02%以上とする。

実績：0.0148%（達成度：74.0%）

評価：市街地循環線の利用者数は、令和6補助年度よりも増加し、一般利用（有償利用者）の数も増加しているものの、収支率の目標達成には至っていないため、引き続き一般利用増加のための取組を進めていく。

目標③ 市街地循環線への公的資金投入額を897万円/年以内とする。

実績：945万円/年（達成度：94.9%）

評価：昨今の燃料費高騰や人件費上昇など、諸物価高騰により、現行のままの運行経費（交通事業者への業務委託料）では市街地循環線の維持が難しく、前年度比約50万円の増額となった。事業者との継続的な協議・協力により経費抑制に努めているが、物価高騰等やむを得ない増額要因については、適正に価格転嫁する必要があるため、今後も経費増額のリスクがある。

## 7) 事業の今後の改善点

利用者数について、コロナ禍以前の水準（R1：3,387人）まで回復の兆しがみられるが、利用者のほとんどが高齢者等（無料対象の利用者）であるため、一般利用（有償利用者）をさらに促す必要がある。そのため、対象者別の周知パンフレットを活用し、さまざまな団体等への周知活動を実施し、利用者の増加を目指していく。

## 8) 地方運輸局等における二次評価結果

- ・自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- ・いずれの目標を達成することができなかったが、今後も地域公共交通計画に基づき、利用促進策の取組を継続することを期待する。
- ・持続可能な公共交通を維持する観点から、収支率や公的負担額の改善に対する取組についてもご検討いただきたい。